



Vol. 16 / Serial  
No. 365

2025. 11. 1.  
(8pgs)

Copyright © 2025 by Bosai Plus. All rights reserved.

## ■ CONTENTS ■

- P. 1 **【巻頭企画】**  
旅して学ぶ防災ツーリズム  
「世界の持続可能な観光地  
TOP100選」に黒潮町
- P. 3 **【話題を追って 1】**  
広島県・鳥取県共同運用型  
防災情報システムが  
グッドデザイン賞受賞  
★Bosai+Topics  
・内閣府 防災世論調査
- P. 4 **【話題を追って 2】**  
防災士限定！  
「ウェザーニュースPro」  
1年間無料キャンペーン！
- P. 5 **【話題を追って 3】**  
「YAMAP流域地図」  
表示機能のアップデート  
★Bosai+Topics  
・ワンタッチ設置避難テント
- P. 6 **【BOSAI TIDBITS】**  
・武雄市にハイブリッド公園  
・ヒガシギンザスタンプラリー
- P. 7 **ClipBoard** 〜着信あり！  
災害・防災情報リンク集

＜特設コーナーへのリンク＞  
★2025年11月/12月  
防災2カ月イベントと災害カレンダー  
(この日起こった災害 付き)

[\[各 CONTENTS をクリックすると  
そのページへジャンプします\]](#)

リニューアル! ソフトオープン



**bosai-plus.info**

Bosai Plus ホームページでも、いろいろ  
ご活用いただける話題を提供しています。

**【巻頭企画】「旅して学ぶ防災＝防災ツーリズム」**

## 観光→光(文化)を観る→防災を観る 旅して学ぶ防災と震災復興への道程

「Thriving Communities (活気あるコミュニティ)」＝黒潮町／「大人の社会科見学ツアー®」



オランダ本部の環境保護団体Green Destinations「2025世界の持続可能な観光地TOP100選」に選出された高知県黒潮町の遠望(黒潮町HPより)。「TOP100」は、持続可能な観光に積極的に取り組む地域を評価するもので、黒潮町は津波避難タワー(上写真中央)などの防災施設を観光資源化し、周辺周遊と組み合わせた「防災ツーリズム」が評価された。選出自治体は受賞ロゴマークの活用や団体HP掲載を通じ、国際的な観光アピールができる。(画像クリックで拡大表示)

### 黒潮町の「防災ツーリズム」が国際的にも高い評価を得た 『日本一危ない町』(想定津波高 34m)をプラスイメージに転換

世界の持続可能な観光地を表彰する国際認証機関「Green Destinations」(本部:オランダ)が、2025年版「世界の持続可能な観光地 TOP100」で、6つのカテゴリーで世界の100地域を選出した。そのうちのカテゴリー「Thriving Communities (活気あるコミュニティ)」部門で、高知県黒潮町の防災文化と津波避難タワーなどの防災視察を観光資源化し、周辺の周遊と組み合わせた「防災ツーリズム」を高く評価し、TOP100の1地域に選出した。黒潮町は受賞ロゴマークの活用や「Green Destinations」のホームページ掲載を通じて、国際的な観光アピールができる。

ちなみに6つのカテゴリーは、①観光地管理、②自然と景観、③環境と気候、④伝統と文化、⑤活気あるコミュニティ、⑥ビジネスとマーケティングで、今年は日本から19地域が応募し、10地域が選出されている。四国からは黒潮町のほか、香川県の丸亀市と三豊市も選ばれた。高知県内の自治体の選出は初めて。

[>>高知県黒潮町:高知県初! 国際認証Green Destinations2025「TOP100」に選出](#)

[>>Green Destinations:TOP100 グッドプラクティス・ストーリー概要](#)



白米千枚田(しろよねせんまい)工区道路の復旧箇所(KNT-CT資料より)／左上組み込み写真は震災前の白米千枚田(Wikipediaより)(画像クリックで拡大表示／以下同様)



宮城県石巻市複合文化施設(マルホンまきあーとテラス)をあしらった「防災観光地」ポスターより



静岡県伊豆市西側の土肥(とい)海岸(松原公園)に、日本で初めてとなる津波避難複合施設「Terrasse Orange toi」(テラス・オレンジ・トイ)が2024年7月にオープン



宮城県・南三陸町観光協会は、東日本大震災及び「現在の南三陸町」についてリアルタイムで伝えるオンラインプログラム「ガイドと一緒に歩く南三陸オンラインスタディツアー」を「催行」している

「Green Destinations」の「2025 TOP100 グッドプラクティス・ストーリー概要」の選定根拠によると、黒潮町は「『日本一危ない町』(南海トラフ巨大地震被害想定で津波高が最大34m)から『先進的な防災に取り組む町』へ、風評被害による震災前過疎にあらがひ、町と事業者と住民が連携し、自分事として対策や防災教育を推進。『犠牲者ゼロ・避難放棄者ゼロ』を目標に、津波避難設備などのハード事業のほか、絶望からの意識改革や防災教育などのソフト事業の取組みを重ねた。この成果として防災が暮らし、町独自の防災文化として定着。これを新たな地域資源とし、防災ツーリズムを構築した。県内外からの視察観光などの受入れで、関係人口の拡大や経済波及効果をもたらし、『日本一危ない町』からプラスイメージに転換、地域の未来を切り開く挑戦がいまも続いている——」としている。

## クラブツーリズムの「大人の社会科見学ツアー®」 「これからの防災と震災復興への道のり 旅して学ぶ能登半島」

ひるがえって、クラブツーリズム株式会社(東京都江東区)はこのほど、石川県と連携した「大人の社会科見学ツアー®:これからの防災と震災復興への道のり／旅して学ぶ能登半島」の販売を開始(10月29日より)している。

クラブツーリズムはこれまでも、2024年1月の能登半島地震で震災に見舞われた能登半島を旅を通じて応援するべく、語り部ガイド付き「のと鉄道」乗車を組み込んだツアーや、小学生とその保護者を対象とする「能登で震災を学ぶ旅」を企画販売してきた。震災から1年10カ月が経過したいま、より多くの人びとに、能登を巡りながら被災地の現状や復興の過程を学んでもらうことが重要という思いから、クラブツーリズム、石川県、国土交通省能登復興事務所が連携し、能登の観光地に加え復興箇所を巡る「これからの防災と震災復興への道のり 旅して学ぶ能登半島 3日間」の企画・販売となったとしている。

同ツアー催行期間は、2026年1月～3月。旅行代金は大人:69,900円～84,900円

### <ツアーの学びポイント>

#### ① 寺社を中心とした地域復興について学ぶ【曹洞宗大本山總持寺祖院】

僧侶による案内付きで被災した様々な国登録有形文化財を見学

#### ② 自然の力と共存すること【白米千枚田工区道路の復旧箇所】

地震により隆起した海岸に新たに整備した道を観光バスで走行。国土交通省能登復興事務所職員による復旧の対応解説付き

#### ③ 能登の風景と列車がつなぐ人々と復興

のと鉄道「語り部観光列車・のと里山里海号」に乗車。震災を体験した「語り部ガイド」から震災当日の状況や復興の現状の講話

#### ④ 能登空港で学ぶ生きた防災【能登空港】

一般には非公開の能登空港内の防災・備蓄倉庫などを見学、空港職員の解説

#### ⑤ 海と暮らす地域の復興に向けた取り組み

石川県職員の特別解説付きで和倉温泉護岸の復旧箇所を見学

### >>>クラブツーリズム:これからの防災と震災復興への道のり 旅して学ぶ能登半島 3日間

クラブツーリズムの親会社・KNT-CTホールディングスについては、傘下の近畿日本ツーリスト70周年記念事業としての「廃校を活用した防災事業」を本紙最近号で取り上げている。「廃校」を「防災」と結びつけ、地域の企業・学校・自治会などを対象とした「避難生活疑似体験プログラム」を開発したもの。下記リンクを参照のこと。

>>>《Bosai Plus》2025年8月15日号(No.360): KNT-CTの「廃校を活用した防災事業」

## 観光→光(文化)を観る→防災を観る

## 『防災観光地』、『震災伝承施設』…防災ツーリズム活用で被災地支援

本紙はまた、本年2月に巻頭企画「観光x防災=『防災観光地』防災施設への旅」を取り上げ、「観光→光(文化)を観る→防災を観る」のテーマを訴求しているので参考に供したい。

>>>《Bosai Plus》2025年2月1日号(No.347): 観光x防災=「防災観光地」防災施設への旅

>>>(参考)グッドマンサービス:「Evacuation Siteseeing 防災観光地」

>>>(参考)3.11 伝承ロード:東日本大震災:震災伝承施設一覧



## ●【話題を追って1】広島県・鳥取県共同運用型防災情報システム

# 広島県・鳥取県共同運用型防災情報システム

## 都道府県防災情報システムとして初めて「2025年度グッドデザイン賞」受賞



「広島県・鳥取県共同運用型防災情報システム」が、2025年度グッドデザイン賞（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞（IBM資料より）（画像クリックで拡大表示／以下同様）



「広島県（上画像）・鳥取県（下）共同運用型防災情報システム」（IBM資料より）

### ■ 防災DXの新たな形として今後の標準となる可能性

「広島県・鳥取県共同運用型防災情報システム」が、県境を越えた防災支援を可能にする日本初の共同運用プラットフォームとして高く評価され、2025年度グッドデザイン賞（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）を受賞した。

デザインのポイントは、複数県が共同運用できる防災情報システムを構築し、災害支援における自治体間の協力・連携を円滑にしたこと。そして、防災情報に最適なデザインと柔軟なパーソナライズ性により、防災職員の情報収集と意思決定を迅速化したこと、さらに、防災に詳しくないユーザを意識した公開サイトの導線を設計し、住民の避難行動につながる情報発信を行えるようにしたこと——同システムのデザインは、広島県総務局県庁情報システム担当と、日本IBMコンサルティング事業本部官公庁事業部およびIBM iX（インタラクティブ・エクスペリエンス）部門が中心となって協働し手がけた。

グッドデザイン賞審査委員による評価コメントは次のようだ——「複数県が共同で運用できる防災情報システムを構築し、災害支援における自治体間の協力と連携を円滑にした点が評価された。日本は自然災害が多発する国であり、防災対策は喫緊の課題だが、各県のシステムは県を跨いだ共有がむずかしいという課題があった。本取組は日本初の共同運用型システムであり、防災DX（デジタル・トランスフォーメーション）の新たな形として今後の標準となる可能性を秘めている。防災情報に最適化したデザインと柔軟なパーソナライズにより、誰でも使いやすく、住民の避難行動を促すようデザインされている」

「グッドデザイン賞」とは、1957年創設のグッドデザイン商品選定制度を継承する、日本を代表するデザインの評価とプロモーションの活動。国内外の多くの企業や団体が参加する世界的なデザイン賞として、暮らしの質の向上を図るとともに、社会の課題やテーマの解決にデザインを活かすことを目的に、毎年実施されている。受賞のシンボルである「Gマーク」は優れたデザインの象徴として広く知られている。

>>日本デザイン振興会：「広島県・鳥取県共同運用型防災情報システム」初の「グッドデザイン賞」

## BOSAI+ Topics

（注）世論調査は、令和5年8月に実施した「防災に関する世論調査」の結果を示す。調査は、全国の世帯を対象とし、インターネット上で実施された。調査期間は、令和5年8月10日から8月15日まで。調査対象は、18歳以上の世帯員。調査方法は、インターネット調査。調査結果は、有効回答数に基づいて集計された。

| 調査項目   | 回答数 | 割合 |
|--|-----|----|
| 1. 防災に関する世論調査の結果   |     |    |
| （注）世論調査は、令和5年8月に実施した「防災に関する世論調査」の結果を示す。調査は、全国の世帯を対象とし、インターネット上で実施された。調査期間は、令和5年8月10日から8月15日まで。調査対象は、18歳以上の世帯員。調査方法は、インターネット調査。調査結果は、有効回答数に基づいて集計された。 |     |    |
| 2. 防災に関する世論調査の結果   |     |    |
| （注）世論調査は、令和5年8月に実施した「防災に関する世論調査」の結果を示す。調査は、全国の世帯を対象とし、インターネット上で実施された。調査期間は、令和5年8月10日から8月15日まで。調査対象は、18歳以上の世帯員。調査方法は、インターネット調査。調査結果は、有効回答数に基づいて集計された。 |     |    |
| 3. 防災に関する世論調査の結果   |     |    |
| （注）世論調査は、令和5年8月に実施した「防災に関する世論調査」の結果を示す。調査は、全国の世帯を対象とし、インターネット上で実施された。調査期間は、令和5年8月10日から8月15日まで。調査対象は、18歳以上の世帯員。調査方法は、インターネット調査。調査結果は、有効回答数に基づいて集計された。 |     |    |
| 4. 防災に関する世論調査の結果   |     |    |
| （注）世論調査は、令和5年8月に実施した「防災に関する世論調査」の結果を示す。調査は、全国の世帯を対象とし、インターネット上で実施された。調査期間は、令和5年8月10日から8月15日まで。調査対象は、18歳以上の世帯員。調査方法は、インターネット調査。調査結果は、有効回答数に基づいて集計された。 |     |    |
| 5. 防災に関する世論調査の結果   |     |    |
| （注）世論調査は、令和5年8月に実施した「防災に関する世論調査」の結果を示す。調査は、全国の世帯を対象とし、インターネット上で実施された。調査期間は、令和5年8月10日から8月15日まで。調査対象は、18歳以上の世帯員。調査方法は、インターネット調査。調査結果は、有効回答数に基づいて集計された。 |     |    |
| 6. 防災に関する世論調査の結果   |     |    |
| （注）世論調査は、令和5年8月に実施した「防災に関する世論調査」の結果を示す。調査は、全国の世帯を対象とし、インターネット上で実施された。調査期間は、令和5年8月10日から8月15日まで。調査対象は、18歳以上の世帯員。調査方法は、インターネット調査。調査結果は、有効回答数に基づいて集計された。 |     |    |
| 7. 防災に関する世論調査の結果   |     |    |
| （注）世論調査は、令和5年8月に実施した「防災に関する世論調査」の結果を示す。調査は、全国の世帯を対象とし、インターネット上で実施された。調査期間は、令和5年8月10日から8月15日まで。調査対象は、18歳以上の世帯員。調査方法は、インターネット調査。調査結果は、有効回答数に基づいて集計された。 |     |    |
| 8. 防災に関する世論調査の結果   |     |    |
| （注）世論調査は、令和5年8月に実施した「防災に関する世論調査」の結果を示す。調査は、全国の世帯を対象とし、インターネット上で実施された。調査期間は、令和5年8月10日から8月15日まで。調査対象は、18歳以上の世帯員。調査方法は、インターネット調査。調査結果は、有効回答数に基づいて集計された。 |     |    |
| 9. 防災に関する世論調査の結果   |     |    |
| （注）世論調査は、令和5年8月に実施した「防災に関する世論調査」の結果を示す。調査は、全国の世帯を対象とし、インターネット上で実施された。調査期間は、令和5年8月10日から8月15日まで。調査対象は、18歳以上の世帯員。調査方法は、インターネット調査。調査結果は、有効回答数に基づいて集計された。 |     |    |
| 10. 防災に関する世論調査の結果  |     |    |
| （注）世論調査は、令和5年8月に実施した「防災に関する世論調査」の結果を示す。調査は、全国の世帯を対象とし、インターネット上で実施された。調査期間は、令和5年8月10日から8月15日まで。調査対象は、18歳以上の世帯員。調査方法は、インターネット調査。調査結果は、有効回答数に基づいて集計された。 |     |    |

「防災に関する世論調査（速報）」より、上画像：「家庭での防災の話題」、下：「家庭で準備する備蓄について」

### ● 特に「トイレ関連の備蓄はまだ十分とは言えない」 内閣府「防災に関する世論調査（速報）」より

内閣府が2025年8月に実施した「防災に関する世論調査」は、国民の防災意識や行動の実態を把握して今後の防災施策の参考にするための調査。その速報版が公表され、以下のような主なポイントがまとめられている。

#### ▼ 災害への不安の高まり

約85%の人が「年々災害への不安が高まっている」と回答。特に地震（83.6%）への不安が最も高く、大雨・豪雨、台風が続く。

#### ▼ 防災訓練の実施状況

約90%が「防災訓練は重要」と認識する一方で、約70%が3年以上訓練を行っていないと回答。推計では約6500万人が「防災訓練休眠人口」とされている。

#### ▼ 防災意識の地域差と年齢差

若年層よりも高齢層のほうが防災意識が高い傾向。地域によっても意識の差。

#### ▼ 情報収集手段の変化

災害時の情報源として、テレビに加えてスマートフォンやSNSの利用が増加。

政府は備蓄について、「最低3日分、できれば1週間分」を推奨しているが、特にトイレ関連の備蓄はまだ十分とは言えない状況。能登半島地震などでトイレ不足が深刻化したこともあり、今後の課題として注目される。

>>内閣府政府広報室：「防災に関する世論調査（速報）」

## ●【話題を追って 2】防災士支援「ウェザーニュースPro版」の提供

# 防災士に「ウェザーニュースPro版」を1年間無料サービス 災害時の情報収集・リスク判断において、より効果的で自信を持てる判断の一助に



ウェザーニュースが防災士限定で「ウェザーニュースPro版」の1年間無料キャンペーンサービスを提供（画像クリックで拡大表示／以下同様）

※ AIチャット「お天気エージェント」  
「大抵書面がほしいけど、図で伝えたい！」に即答！  
防災士目標での情報整理・行動指針をAIがアシストします。



※ 気象・防災情報をワンストップで確認  
雨量レーダー、河川水位、避難情報、PCとスマホで一元管理。  
「画面の左側にすぐ伝えたい情報」が、手元で揃います。



※ 「マイ防災タイムライン」通知で逃げ遅れゼロへ  
家族構成・地域特性に合わせて、避難タイミング自動通知。  
平常時の備えから発災時の行動までを一括サポート。



上画像：「ウェザーニュースPro」の主な機能の一部より

## ウェザーニュース：EXTRA！ 林野火災注意報・警報の 適切な発令判断を支援

ウェザーニュースが「ウェザーニュース for business」において、林野火災危険度予測サービスの提供を開始した。

[>>ウェザーニュース：林野火災注意報・警報の発令判断を支援](#)



マップ上で林野火災発生危険度・延焼危険度を表示

## ■「ウェザーニュースPro」とは——プロが使用する高度な防災情報ツール

株式会社ウェザーニューズ（千葉県美浜区）が、防災士限定（先着10,000名限定）で、「ウェザーニュースPro」の1年間無料キャンペーンを2026年9月30日まで実施している。

「ウェザーニュースPro」とは、ウェザーニューズが提供するプロフェッショナル向けの気象情報サービスで、個人でも利用できるサブスクリプション型の有料プラン。

その主な特徴とサービス内容は——

### 1. 高精度な気象予測

30時間先までの超高解像度雨雲レーダー（250m四方／10分間隔）／台風進路予測、線状降水帯解析、落雷リスクなどの専門情報

### 2. 広域・多地点対応

自宅・職場・家族の住まいなど複数地点を登録、各地点の気象・防災情報を一目で把握

### 3. スケジュール連動型リスク管理

出張・旅行・イベントなどの予定に合わせて、雨や風のリスクを事前に確認／閾値設定によるアラート通知も可能

### 4. 広告なしの快適な閲覧環境

PCの大画面で広告表示なし／スマホアプリでもPro専用画面や通知機能が利用可能

### 5. AIによる気象アシスタント機能

チャット形式で「〇〇区で雨が降ったのは何日前？」などに即答、わかりやすくサポート

### 6. 月額料金

月額680円（税込）で初月無料／クレジットカードによる定期購入制

[>>ウェザーニューズ：防災士限定！ウェザーニュースPro 1年間無料キャンペーン](#)

## ■ 行動指針サポートから、専門的な気象データ解析まで「心強い伴走者」に

防災士限定！ウェザーニュースPro 1年間無料キャンペーンについて株式会社ウェザーニューズ執行役員サービス運営責任者・高森美枝さんは次のように語る。

「防災士の資格を取得したものの『何から始めればいいのかわからない』、『一人で判断するのが不安』といった課題を抱える方がたを支援するため、プロが使用する高度な防災情報ツール『ウェザーニュースPro』を1年間無料で提供します。AIチャットボットによる行動指針サポートから、専門的な気象データ解析まで、防災士の皆さまが現場で直面する様々な場面で「心強い伴走者」として活用していただき、より効果的で自信を持った防災活動を実現していただくことを目的としています。災害時の情報収集・リスク判断を一人で背負うのではなく、プロ仕様のツールとともに地域や企業の防災リーダーとして活躍していただけるよう、ウェザーニューズがご支援いたします」

### 《 防災士限定！ウェザーニュースPro 1年間無料キャンペーン概要 》

対象：防災士認証登録者（防災士登録番号必須）

特典：ウェザーニュースPro（通常月額680円）を1年間無料

期間：利用開始から2026年9月30日まで

定員：先着10,000名限定

### 「ウェザーニュースPro」の主な機能：

- ・AIチャット「お天気エージェント」（防災士目線での情報整理・行動指針をAIがアシスト）
  - ・ワンストップ気象・防災情報（周囲の住民にすぐ伝えたい情報が、手元で揃う）
  - ・「マイ防災タイムライン」通知（家族構成・地域特性に合わせて避難タイミング自動通知）
- 平常時の備えから発災時の行動までを一括サポート。

このほか、リポート投稿（空の様子や被害状況の写真・動画投稿）、ベテラン防災士にも数値予報モデル、気候リスクマップなど、“プロ仕様”の解析ツールも完備。災害分析・報告書作成にも活用でき、机上訓練等でのリスク評価に使える。



## ●【話題を追って3】「YAMAP流域地図」アップデート

# 「YAMAP流域地図」表示機能をアップデート

流域地図に「小学校」「自然災害伝承碑」「名水百選」などの表示機能



「自然災害伝承碑」をハザードマップモードで表示したYAMAP流域地図。防災から水の恵みまで、流域の多面的な価値を可視化（画像クリックで拡大表示／以下同様）



上写真：小学校で流域授業、下：流域体験する様子

### ●「流域思考」の提唱者・岸由二慶應義塾大学名誉教授が待望する機能を追加

「地球とつながるよろこび。」——を企業理念に掲げアウトドア事業を行う株式会社ヤマップ(福岡市／YAMAP)は、日本全国の流域を網羅した3Dデジタル地図の「YAMAP流域地図」において、「小学校」「自然災害伝承碑」「名水百選」を表示する機能を追加した(後日、「江戸時代の温泉番付に基づいた温泉地」も表示予定)。

YAMAP流域地図での全国の小学校を表示する機能により、主にこどもたちが、自分たちはどの流域圏で暮らしているかがより直感的にわかるようになる。また、小学校の環境教育や地理・理科の授業で、流域に関する学習を進める際の素材として活用しやすくなる。この機能は、「流域思考」の提唱者であり、鶴見川流域や小網代流域での実践者でもある岸由二・慶應義塾大学名誉教授が待望する機能でもある。

>>>YAMAP:YAMAP流域地図

「YAMAP流域地図」は、2020年7月に九州、中部地方などを中心に各地で発生した集中豪雨を契機に、山・川・街・海を含む流域全体で治水する必要性を強く認識したことから開発が始まった。岸由二名誉教授が提唱する「流域思考」をベースにした3Dデジタル地図で、2024年5月にリリースされ、都道府県や市町村といった人間がつくった行政区分ではなく、地球の生態系の単位である「水の流れ」をわかりやすく視覚化した地図で、2024年6月に洪水・土砂災害ハザードマップを追加している。2024年度「グッドデザイン賞・金賞」(経済産業大臣賞)を受賞した。

>>>《Bosai Plus》2024年11月1日号(No.341):「YAMAP流域地図」 24年度「グッドデザイン賞・金賞」を受賞

2024年リリースの洪水・土砂災害のハザードマップ表示機能に加え、今回「自然災害伝承碑」を表示する機能を追加した。流域地図をベースに、過去の災害の教訓を未来へとつなぐ役割の一端を担うことができる。自然災害伝承碑をもとに、その流域に暮らす住民が、自然災害におけるリスクを「自分ごと」として認識し、流域全体での防災意識を高めるきっかけにしたいとしている。

さらに、「名水百選」を表示する機能を流域地図に追加。名水がある場所は、その周囲の水環境が豊かな証でもある。名水を点でとらえるのではなく、流域という面でとらえることで、その地域に名水があることの価値や意味をより広く認識できるようになると考えた。

ヤマップは今後、流域地図は、水関連のリスクを可視化する防災地図という側面だけでなく、地球環境にとって最大の恵みのひとつである水資源を可視化する「いのちの地図」へ進化することを目指す。今後、流域地図に「水・土・大気、山・森・川・海などの自然資本を計測し表示する」機能の追加も視野に入れており、同機能の活用や事業連携、流域治水に関心のある都道府県、地方自治体、不動産関係者など企業からの問い合わせ歓迎だ。

## BOSAI+ Topics

- 防災グッズ・備品
- 快適な避難空間
- 緊急時のコミュニケーション
- 防災グッズの活用
- 防災グッズの活用
- 防災グッズの活用



RABLISS ワンタッチ避難テント KO416

### ● 小林薬品 ワンタッチ避難テント 新発売

傘のようにパッと開く 1分設営で広々プライベート空間！

2人で取っ手を引くだけのワンタッチ構造で約1分で誰でも設営ができ、収納もスムーズに行える避難テントが登場。段差なし・大空間・換気自在の快適空間を提供する。災害時の避難所でもアウトドアでも便利・快適、誰でも簡単に組立可能だ。

ストレスを減らし快適空間を提供する革新的ワンタッチテントで、かつ、ゆとりある空間とプライベート確保を両立した設計なので、避難生活でのストレスを大幅に軽減できるというもの。付帯機能として、衣類の吊り下げ用フック、両サイドに収納ポケット、布とメッシュの2重構造。天井からも換気可能、照明などを吊り下げ可、出入口に表札や伝言を付けられ、付属のカーテンで外から見えないようにもでき、付属のカーテンを縦に取り付けられれば2部屋構造にも。

>>>小林薬品:ワンタッチ避難テント 新発売のお知らせ

**[BOSAI TIDBITS]**

**BOSAI+  
Tidbits**



左写真は公園内の貯水池。右:今夏、8月10日夜9時ごろの大雨の様子。一定量雨水が貯まると貯水池として機能し、排水する仕組み(画像クリックで拡大表示/以下同様)



6月には梅雨を前にアソビバ防災デーと題して楽しむ防災を訴求。毎月のようにasobibaマルシェ・マーケットを開催



ミニプールやスプリングラーで水あそびも

● **佐賀県武雄市に 新時代の公園「HONDA TAKEO PARK」誕生  
——ハイブリッドパーク「asobiba(アソビバ)」**

● **防災、カフェ、芸術文化、モビリティなど、多彩な要素が融合した公園**

株式会社ホンダカーズ中央佐賀(佐賀市)が本年4月、佐賀県武雄市武雄町の国道34号六田交差点そばに、大雨時に雨水をためる遊水地機能を持つ公園を備えた店舗「HONDA TAKEO PARK/asobiba(アソビバ)」をオープンした。敷地面積は約1万3千平方mで、九州のホンダディーラーでは最大級の広さ。この店舗にはショールームや事務所のほか整備工場は12ピットが並ぶ。同社は「HONDA TAKEO PARK/asobiba(アソビバ)」を、防災・観光・文化資本・地域を横断して多角的な貢献をめざすとして、“新時代のハイブリッド公園”へと進化させている。

1999年8月、2021年8月の豪雨で武雄市は甚大な被害を受けたが、ホンダカーズ中央佐賀は、近年ますます激甚化する気象災害・浸水被害に負けない「治水対策」と、「人びとの憩いの場」、さらには「観光文化資本の場」の合体の魅力の活用で相乗効果を生み出そうというもの。「HONDA TAKEO PARK/asobiba(アソビバ)」は、地方創生・新たな観光・地域貢献の挑戦として、防災、カフェ、芸術文化、モビリティなど、多彩な要素が融合する、いわばハイブリッドパークだ。

今夏は、治水対策の貯水池を利用して7月、8月、酷暑の続くなか、『asobibaみずあそび』と冠した水遊びイベントを開催、暑さ対策をしながら多くの子どもたちが参加し、家族連れやホンダカーズやカフェを訪れる多くの人でにぎわった。

また、市の防災減災課を招いて、災害時は避難所となる施設・建物の紹介や、ボランティア団体を招いての防災グッズや車中泊避難時の注意点などの情報共有、そして関係会社による大雨時の止水板や車両浸水防水シートの使い方の勉強会など防災施策の充実を図るほか、おむすび、米粉のシフォンケーキ、綿菓子、里の駅北方野菜、自然食品などの販売、さらには耳つぼジュエリー、ヘッドリフレ、ドローンシューティング体験など、市民の交流の場ともなっている。

>>ホンダカーズ中央佐賀:新時代の公園 HONDA TAKEO PARK「asobiba(アソビバ)」

● 『ヒガシギンザ防災スタンプラリー』 ～まち歩きで防災知識を～  
——10月17日から12月15日まで開催 抽選と先着でプレゼント

● **東銀座での『もしも』、考えていますか?**

東銀座まちづくり推進協議会(主催)と一般社団法人東銀座エリアマネジメント(共催)が、地域の防災連携を強化するため、2025年10月17日から12月15日(月)までの期間、『ヒガシギンザ防災スタンプラリー』を開催する。昨年に続き2年目となるスタンプラリーは、全8箇所のデジタルスタンプを集めた人に、先着/抽選で東銀座らしいプレゼントを提供するもので、“パワーアップした『ヒガシギンザ防災スタンプラリー』にぜひ参加を!”とアピールしている。

同スタンプラリーの趣旨は、「もし、あなたがいま、東銀座で被災したら、どこへ避難するか考えたことはありますか? まち歩きを楽しみながら防災を学べるデジタルスタンプラリー」だ。スマートフォンを片手に、自分のペースで東銀座のまちを巡ることで、いざという時に命を守るための防災設備や施設、東銀座の安心・安全を発見できるというもの。

抽選プレゼントは、「ホテル宿泊券」、「ホテル食事券」、「ホテルペアランチ」のほか、先着(スタンプ8個・100名)プレゼントとして「喫茶店ドリンクチケット」など。

>>東銀座エリアマネジメント:『ヒガシギンザ防災スタンプラリー』



まち歩きが、防災知識に変わる。豪華ホテルペア宿泊券やペアランチ券が当たるチャンスも!

わが国最大級の  
防災イベントと  
災害史カレンダー

>>随時更新……ここをクリック!

**Bosai Plus**

**防災カレンダー**



## ClipBoard 着信あり！

[ClipBoard]は、インターネット上の玉石混淆の情報の大海のなかから、“これは《Bosai Plus》読者に広く知らせたい”という情報の“玉”をみなさまに代わって見つけ出し、その情報へリンクするページです。  
\*見出しの青文字をクリックすると情報源へジャンプします。  
\*リンク先での記事削除などの理由で「リンク切れ」となる場合がありますのでご了承ください。

### 《新着情報》

#### 【官庁情報】

##### ▼首相官邸:防災庁の来年度設置堅持 復興相が準備担当兼務 (時事通信:2025.10.22.)

高市早苗首相は21日の就任記者会見で、2026年度中の防災庁設置を目指す石破前政権の方針を堅持し、準備を進める考えを示した。復興庁の知見を生かすため、牧野京夫復興相に防災庁設置準備担当を兼務……

##### ▼内閣府:家庭備蓄、トイレは3割届かず 能登地震で不足指摘 (時事通信:2025.10.17.)

家庭で3日分以上の備蓄をしている品目を今回初めて複数回答で尋ねたところ、最も多かったのは1人1日3リットル以上の「飲料水」で69.8%、一方、「携帯トイレ・簡易トイレ」は27.5%にとどまった……

##### ▼会計検査院:川をまたぐ水道管、7割が耐震性不十分な橋に設置の恐れ 供給に懸念 (朝日新聞:2025.10.21.)

橋桁部分に水道管が固定されている橋を会計検査院が調べたところ、調査した橋の約7割で耐震性が確保されていない恐れがあった。医療機関や避難所に接続している管もあり、地震の際に水の供給などが……

##### ▼国土交通省:2025年 濱口梧陵国際賞(国土交通大臣賞)～日本、イタリアの2名が受賞～ (2025.10.31.)

津波・高潮等に対する防災・減災に関して顕著な功績を挙げた国内外の個人や団体を表彰する「濱口梧陵国際賞(国土交通大臣賞)」の2025年の受賞者が決定。授賞式及び記念講演会を11月11日に開催……

##### ▼国土交通省:道路の被害状況把握にJAXAの衛星画像を活用～国土交通省道路局とJAXAが災害発生時の人工衛星画像データの活用協定締結～ (2025.10.28.)

災害発生時には早期に道路被害状況の把握が必要。特に夜間や悪天候の際には現地調査が困難。こうした課題に対応するため、宇宙航空研究開発機構と人工衛星画像データを活用した災害情報提供に関する協定を……

##### ▼気象庁:令和7年10月25日01時40分頃の根室半島南東沖の地震 (2025.10.25.)

震源:根室半島南東沖 深さ 40km、M5.8(暫定値)、最大震度5弱:北海道根室市。津波なし。この地域では過去に、大地震発生から1週間程度の間と同程度の地震が続発した事例があることから、強い揺れに……

##### ▼総務省消防庁:5～9月の熱中症搬送、過去最多 全国で10万510人 (時事通信:2025.10.25.)

総務省消防庁は29日、熱中症のため5～9月に救急搬送された人数が全国で10万510人に上ったと発表した。過去最多だった昨年の同時期から2932人増え、統計を取り始めた2008年以降で最多を更新した……

#### 【自治体情報】

##### ▼千葉県袖ケ浦市:「袖ケ浦市防災フェスティバル(総合防災訓練)」～いざという時のためにみんなで考えよう～ 11月24日開催 (2025.10.28.)

袖ケ浦市では地震等の大規模災害に備え、市及び関係機関が連携し、地域住民と一体となった総合防災訓練を実施して防災体制の強化・整備を図るとともに「人が自ら積極的に集まってくる防災訓練」を目指し……

##### ▼千葉県四街道市:2025年度 四街道市総合防災訓練を実施 一災害から身を守るための行動を実践しよう～ (2025.10.22.)

2025年10月25日に6年ぶりとなる総合防災訓練を開催。四街道中央公園野球場(第1会場)では関係事業者等との実動訓練、四街道市立中央小学校(第2会場)では防災啓発ブース、市民体験型訓練を行い……

##### ▼埼玉県岩槻警察署:「東横INNさいたま岩槻駅前」と防災拠点としての協定を締結 (東横INN:2025.10.22.)

埼玉県岩槻警察署は、株式会社東横イン「東横INNさいたま岩槻駅前」と緊急事態発生時等における宿泊施設の優先使用に関する協定を締結。岩槻警察署からの要請により宿泊施設の一部を提供するもので……

##### ▼東京都:「東京都地下空間浸水対策ガイドライン」の改定について (2025.09.24.)

TOKYO強靱化プロジェクトに激甚化する風水害から都民を守るリーディング事業として「地下街等の避難誘導」が位置付けられている。都は「東京都地下空間浸水対策ガイドライン」により地下街等の地下空間……

##### ▼東京都品川区:ピジョンと連携協定を締結 | 首都直下型地震など多様な災害に備え、物資提供等で連携 (ピジョン:2025.10.09.)

東京都品川区は育児用品、マタニティ用品・介護用品・保育サービスを手掛けるピジョン株式会社と「災害時における物資供給等に関する協定」を締結。品川区は「品川区こども計画」を策定し安心して子育てで……

##### ▼東京都町田市:みんなで備えて未来を守ろう「まちだ防災ラボ」11月23日開催 (2025.10.30.)

起震車によって地震の揺れや煙ハウスで視界の狭さなどを体験。他にも様々なブースがあり防災意識を高め、知識を深めることができる。簡易トイレや非常食など災害に備える様々な実用品の展示と販売も……

##### ▼三重県津市:「災害対応型ランドリー」のジーアイビーと「災害時における資機材の提供に関する協定」を締結 (ジーアイビー:2025.10.22.)

三重県津市は株式会社ジーアイビー(名古屋市)と「災害時における資機材の提供に関する協定」を締結した。災害発生時や防災訓練時にジーアイビーは簡易発電機や炊き出し用大釜などの資機材を提供……

##### ▼奈良県生駒市:宿泊を伴う防災訓練は奈良県初!生駒市 11/1に「避難所宿泊訓練」を開催 (毎日新聞:2025.10.24.)

奈良県生駒市は、2025年11月1日から11月2日にかけて、生駒市体育協会 滝寺S.C.にて「避難所宿泊訓練」を実施。生駒市が災害対処能力の向上を目的に行う「令和7年度生駒市総合防災訓練」の第3弾で……

##### ▼広島県・鳥取県:「広島県・鳥取県共同運用型防災情報システム」が都道府県防災情報システムとして初めて「2025年度グッドデザイン賞」を受賞 (日本IBM:2025.10.15.)

「広島県・鳥取県共同運用型防災情報システム」は、県境を越えた防災支援を可能にする日本初の共同運用プラットフォーム。日本IBMと、広島県総務局県庁情報システム担当が中心となっており……

##### ▼高知県など10県知事会議:南海トラフ対策財源を内閣府などに政策提言 高知など10県知事会議 (高知新聞:2025.10.18.)

高知県など南海トラフ地震対策を進めている10県知事会議(代表世話人＝浜田省司高知県知事)は内閣府と国土交通省を訪れ、対策に必要な財源確保を求める政策提言を行った。南海トラフ地震での課題解決に……

##### ▼佐賀県武雄市:“人々を守り繋ぐ、新時代の公園”が誕生 ハイブリッドパーク HONDA TAKEO PARK「asobiba(アソビバ)」

(ホンダカーズ中央佐賀:2025.10.27.)

毎年のように起る冠水被害に負けない、地域へ感謝と貢献を。「治水対策」x「人々の憩いの場」x「新・観光文化資本の場」の魅力を活用し相乗効果を生み出す。地方創生・新たな観光・地域貢献の挑戦が……

#### 【報道クリップ】

##### ▼時事通信:通信大手が避難所支援で連携 地域分担で復旧迅速化

(2025.10.22.)

NTTグループとKDDI、ソフトバンク、楽天モバイルの通信大手各社は地震など災害時の避難所支援で連携する。スマートフォン向けの通信サービスや充電設備を提供する地域を分担、より迅速にバランスよく……

##### ▼時事通信:今世紀末に気温2.6度上昇 各国対策でも一パリ協定10年で欧米研究

(2025.10.16.)

欧米の気候研究者らで構成するチームは各国が発表済みの地球温暖化対策が完全に実施された場合でも、今世紀末に世界の気温は産業革命前から2.6度上昇するとの分析結果を明らかに。国際枠組み「パリ協定」……

#### 【周年災害】

##### ▼朝日新聞:中越地震から21年 記憶の継承と追悼、新潟県内各地で

(2025.10.24.)

中山間地で最大震度7を記録し68人が亡くなった2004年の新潟県中越地震から23日で21年。犠牲者への追悼と記憶をつなぐための催しが各地で行われた。小千谷市では当時青年会議所理事長・宮崎悦男市長が……

##### ▼日本海新聞:鳥取中部地震9年 広がる災害ケースマネジメント「DCM」「ぼうさいこくたい」で全国にノウハウ発信

(2025.10.21.)

鳥取県中部を中心に大きな被害をもたらした「鳥取中部地震」の発生から21日で9年。発災後、被災状況を個別に支援する「災害ケースマネジメント(DCM)」と呼ばれる取り組みが県内で初めて実施され……

#### 【防災士関連】

##### ▼朝日大学:朝日大学・瑞穂市・岐阜県共催男女共同参画推進事業 清流の国ぎふ女性防災士会会長の伊藤三枝子様を講師に

(2025.10.31.)

2025年12月17日、清流の国ぎふ女性防災士会会長の伊藤三枝子様を講師に迎え、「考えてみよう、このまちの防災 みんなで守るまちと命 多様な視点で広がる防災の輪」と題する男女共同参画推進講座を開催……

##### ▼文化放送:危機管理産業展…「歌う防災士・しほママ」に会いました

(2025.10.26.)

10月1日、「危機管理産業展」が東京ビッグサイトで開かれ、会場で「歌う防災士・しほママ」と防災安心プランナーの柳原志保さんにお話を聞きました。宮城県多賀城市の出身で現在熊本県和水町にお住まい……

##### ▼朝日新聞:中学生が地域守る担い手に 静岡県伊豆市で中学2年生対象に防災教育

(2025.10.24.)

静岡県伊豆市は、市内の中学2年生を対象に普通救命講習修了証とジュニア防災士のダブル資格取得をめざす実践的な防災教育を始める。被災した地域を守る担い手になってもらうためだ。高齢化率が43%を……

##### ▼テレビ宮崎:小学生防災士が日南市の幼稚園で防災教室「地震の時はダンゴムシのポーズ」

(2025.10.23.)

日南市飢肥小学校の5年生の小学生防災士・清水尊平さんが、災害時に命を守る行動を身につけてもらおうと、尊平さんが通った認定こども園で防災教室を開催。尊平さんは愛犬や家族を守りたいと防災士資格を……

#### 【企業・団体広報関連】

##### ▼日本トイレ研究所:11月10日～19日は「トイレweek」・横浜市の小学校で

##### 災害時のトイレ・排泄について出前授業を実施(11月12日)

(2025.10.30.)

日本トイレ研究所(東京都港区)は、排泄をととして健康や生活リズムを整えることを目的に、啓発活動「トイレweek」を11月10日(いいトイレの日)～19日(国連・世界トイレの日)に実施する……

##### ▼ジャパンハート:新たな災害支援拠点を福島・郡山に開設。東日本大震災以来の、東北での常設拠点が実現

(2025.10.27.)

日本発祥の国際医療NGOである特定非営利活動法人ジャパンハートは、建設と不動産の株式会社フクダ・アンド・パートナーズ支援のもと、福島県郡山市に新たな災害医療支援の拠点を開設した……

##### ▼INFORICH:モバイルバッテリーのシェアリング 防災キッチンカーに「CHARGESPOT」初設置

(2025.10.23.)

「CHARGESPOT™(チャージスポット)」を運営する株式会社INFORICH(東京都渋谷区)は日本消防防災UNITE機構(東京都中央区)が展開する移動式防災キッチンカーに「CHARGESPOT」を設置……

##### ▼平和不動産:東京証券取引所ビル本館で耐震バリューアップを実施 BCP性能の強化を目的に

(2025.10.23.)

東京証券取引所ビル本館は1988年の竣工当初から安全性の高い超高層ビルだが、耐震性および建物利用者の安全・安心のさらなる向上等によるBCP性能の強化を目的に、耐震バリューアップ工事の実施に……

##### ▼KDDI:石川県にAIドローンを常設、遠隔運航実証に成功 ～災害対応から日常利用までを支える ドローンポート全国展開を開始～

(2025.10.16.)

KDDIとKDDIスマートドローンは石川県能登地域(輪島市、七尾市)の公共施設などの4箇所にAIドローンを常設、4機のAIドローンを活用した遠隔運航実証に成功。自動離着陸や充電が可能なドローンポート……

#### 【防災ビス】

##### ▼ウェザーニューズ:高精度な気象予測で林野火災注意報・警報の適切な発令判断を支援 自治体・消防向け林野火災危険度予測サービス

(2025.10.16.)

株式会社ウェザーニューズは、法人向け気象情報サービス「ウェザーニュース for business」において林野火災危険度予測サービスの提供を開始した。全国の林野火災リスクを72時間先まで1kmメッシュで予測……

#### 【アンケート調査・リサーチ など】

##### ▼G-Place:「自治体DX アプリ配信実態調査」全国約95%の市区町村が公式アプリ配信済み ～「防災」カテゴリでの配信が最多～

(2025.10.22.)

自治体向け業務支援の株式会社G-Place(京都府長岡京市)が全国自治体公式アプリ配信状況をまとめ公開。2024年末時点で全国自治体の約95%・1654市区町村がアプリを配信、「防災」が最も多いカテゴリ……

#### 【イベント／講演会／映画・映像／展覧会など】

##### ▼甲南大学:11月29日に阪神・淡路大震災30年シンポジウム「防災文化の形成における大学の役割 ― 常二備へヨを継承するために ―」開催

(2025.10.29.)

甲南大学(神戸市東灘区)は11月29日に阪神・淡路大震災30年シンポジウム「防災文化の形成における大学の役割 ― 常二備へヨを継承するために ―」を開催する。震災後30年を経た今年、講演や……

##### ▼関西大学: 医師・看護師・救急救命士らがチームで救命スキルを競う「千里メディカルラリー」 高槻ミュージックキャンパスで11月2日開催

(2025.10.28.)

阪神・淡路大震災から30年、国内外から23チームが災害時訓練で救命スキルを競う救急医療コンテスト「第22回千里メディカルラリー」が11月2日、関西大学高槻ミュージックキャンパスで開催。チェコ発祥のイベント……